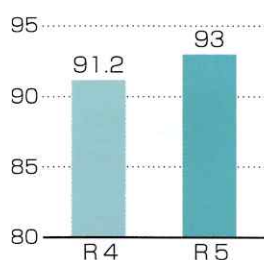


Ⅱ 成果および課題

- 道徳の授業において、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると感じている生徒は、昨年度と比較し微増であった。**（表①）** 従来から集団の中で自分の意見を述べることにについては苦手意識を感じている生徒が多かったが、徐々に話し合いに対する抵抗が減り、自分の考えを述べるのが当たり前と感じる生徒が増えてきているので、今後も継続して取り組んでいく。
- 教職員が交代で学年の学級を回って道徳科の授業を行う取組は、担任以外の教職員も授業者として加わるため、職員室でも道徳科の授業における生徒の変容を話す場面が多くみられるなど、生徒の良さに目を向ける機会や授業改善を話題にする機会が増えた。また、繰り返し同じ内容を扱うことで教師の授業力の向上にもつながると考えられる。
- トリオ学習の取組により、生徒は自分の意見をグループ内で共有してから学級全体で発表することで、自信をもって発言することができた。3人という少人数のグループ編成は意見を交わしやすく、楽しみながら語り合う姿が見られた。**（表②）** また、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることを多くの生徒が実感していた。**（表③）**
- 地域の先人を教材としたり、地域の人材を活用したりすることは、自分の身近なこととして教材を捉えやすく、生徒の学習への意欲の高まりが見られた。道徳科の授業はもとより、他の教科においても地域との関わりについて生徒が主体的に学習に取り組む姿が見られるようになった。
- 「道徳の授業が好きである」との回答が、昨年度と比較し20ポイント以上伸びている。**（表④）** 今回の研究における様々な取組の成果と考えられる。
- ▲ 生徒は話し合いを進んで行うことができるようになったものの、中心となる道徳的価値の理解を深めるために焦点化した発問や、多面的・多角的に自己を振り返る場の設定のあり方について課題を感じ、研究を継続したいと感じている教員が多かった。

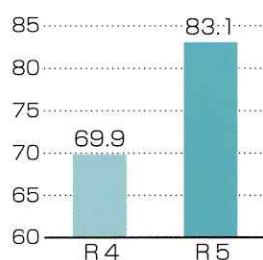
表①

道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる



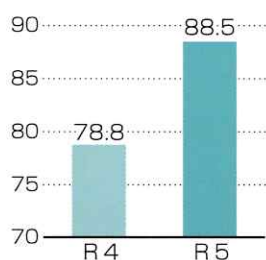
表②

自分と違う意見について考えるのは楽しい



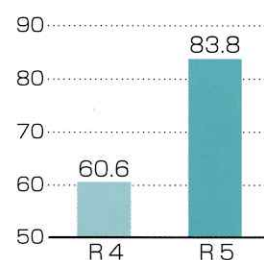
表③

学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる



表④

道徳の授業は好きである



表①～③ 令和4・5年度全国学力・学習状況調査（生徒質問紙回答結果より）
表④ 令和4・5年度とちぎっ子学習状況調査（生徒質問紙回答結果より）

〈今後に向けて〉

- ・ 「トリオ学習」を継続することで、生徒が自分の意見を述べ、他人の意見を受け止め、互いの意見を比較・検討し、道徳的諸価値について多面的・多角的に考えることができるよう、話し合いの工夫を更に図っていく。
- ・ 「ローテーション授業」の取組を通し、今後も各教員が同じ教材による道徳の授業を複数回行い、生徒の多様な反応や学ぶ姿から、更なる授業改善を図っていく。
- ・ 評価についてさらに研究を進め、生徒の実態をより把握した上で授業を改善していく。
- ・ 今後も、道徳科を要として、全教育活動を通じて本校における道徳教育の充実を図り、地域の特色を生かして「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」工夫を図っていく。

